国語科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第４校時　11:45～12:30
学校名　高等学校
対　象　第１学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　単元（教材）名

単元名：論述の方法を学ぶ
教材名：「現代の『世論操作』」（第一学習社）

２　単元の目標

（１）　主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる〔知識及び技能〕⑵イ
（２）　読み手の理解が得られるよう，論理の展開，情報の分量や重要度などを考えて，文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考、判断、表現等〕B⑴イ
（３）　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。(⑵イ)	①　「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう情報の分量や重要度などを考えて，わかりやすい文章の構成や展開を工夫している。(B⑴イ)	①　論理的な文章を読み、主張と論拠との関係について理解し、内容や構成を的確に捉えつつ、読み手の理解が得られるよう自分の意見や考えをわかりやすく論述する取組を粘り強く行う中で、自己の学習を整理しようとしている。

４　指導観

（１）　単元観

本単元は、高校学習指導要領（平成 30 年告示）の国語「現代の国語」「内容〔思考力、判断力、表現力等〕B.書くこと⑴」の指導事項「イ　読み手の理解が得られるよう，論理の展開，情報の分量や重要度などを考えて，文章の構成や展開を工夫することができる。」に基づいて設定した。

これまで文中の形式段落がどのように関わり合っているのかを意識させ、文章構成を把握させる学習活動に取り組んできた。論理展開を整理し、文章の構成を理解できるように引き続き指導をしていく。読み取った内容を踏まえ、生徒に読み手を意識した意見文に取り組ませるが、読み手を意識するとは広範な意味合いが含まれるため、本単元で意見文を指導する際には、「主語と述語が対応している」、「適切な語順になっている」、「複数の意味をもつ文を避けている」、「接続表現が適切である」といった項目について確認させ、わかりやすい文とは何かを理解させることを指導の中核

とする。

さらに次単元「フェアな競争」では、意見文とは「話題」、「主張」、「理由」という三要素が適切な「説明」に支えられている文章であることを指導し、２学期で意見文が書けるように指導していきたい。

（２）　生徒観

本校の生徒は、授業態度は良好であり学習意欲も高く、ペアワークやグループワークにも積極的に取り組む姿勢がみられる。一方で、読み手を意識して文章を書くという態度はクラス全体に広がっておらず、思いついたことをただ文字にするだけになっていることが多い。また、主語と述語のねじれや語順に注意を向けられていない生徒も多い。授業ごとに学習の振り返りを簡潔に行い、他教科においても本単元で身につけたわかりやすい文を書くことが実践できるように指導していく。

（３）　教材観

本教材は、論理構成が明晰なことや筆者が平易な語り口で論述しているため、生徒は筆者の論の筋道を理解しやすく、筆者の主張も読み取りやすい。今日のメディア社会において、個人的な趣味・嗜好を含めたあらゆるデータが知らぬ間に利用され、「世論」の動向が恣意的に操作されていることに伴い、ジャーナリズムが監視すべき権力の在り方もまた、これまでと質的に異なり始めているという筆者の主張を確認させていく。筆者の主張を踏まえ、学習者が自身の立場を考えることを通じて、メディア社会の在り方に対して自分なりの考えと姿勢をもつきっかけを与えたい。また、自身の考えを他者に理解してもらうことは今後の社会生活で不可欠なことである。高校第1学年の段階では、自分の意見を述べることだけを考え、読み手に注意を払わない読みにくい文章になりがちである。この単元を通じて、他者の理解を得られるようなわかりやすい文章に必要な視点を具体的に提示し、文章の効果的な組み立て方を身に付けさせていきたい。

５　年間指導計画における位置付け

第１学年では、「書くこと」に関連する事項として次のことを学習する。

	教材名	学習内容	時数
１学期	羅生門（芥川龍之介）	小説の表現方法の効果について、批評文を書く。	７時間
２学期	夢十夜（夏目漱石）	「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する	６時間
	無彩の色（港千尋）	日本文化について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。	５時間
	現代の「世論操作」（林香里）	情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考えをわかりやすい文で論述する。	５時間
	フェアな競争（内田樹）	筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「フェアな競争」について、「話題」・「主張」・「理由」という三要素が適切な「説明」に支えられている意見文を論述する。	５時間
３学期	なし	なし	

６　単元の指導計画と評価計画（５時間扱い）

時	目標	○　学習内容　・　学習活動	評価規準 (評価方法)
第１時	形式段落がどのような関係になっているか理解することができる。	○意味段落に分け、本文の論理展開を把握する。	ア―①（プリント） ウ―①（プリント）
第２時	筆者の主張は何かを理解することができる。	○　筆者の述べる「ジャーナリズムのあり方」とはどのようなことかを読み取り、「かつて」と「今日」の「世論操作のあり方」と「日常生活における権力の現れ方」にどういう違いが生じているのかという二項対立の視点で論理展開を整理する。	ア―①（プリント） ウ―①（プリント）
第３時	わかりやすい文とは何かを理解することができる。	○　演習を通じて、わかりやすい文とは「主語と述語が対応している」、「語順が工夫されている」、「複数の意味をもつ文を避けている」、「接続表現が適切である」こと理解する。	イ―①（プリント） ウ―①（プリント）
第４時	「世論操作」に対する自分の意見文を書くことができる。	○　読み手の理解が得られるようなわかりやすい文になっているかを注意しながら、本文中における「世論操作」に対して自分の考えや意見を述べる。	イ―①（プリント） ウ―①（プリント）
第５時 (本時)	文章を相互評価しあい推敲することができる。	○　自分の考えや意見を述べた文章をグループで相互評価し、読み手の理解を得られるようなわかりやすい文であったかという観点から推敲する。	イ―①（プリント） ウ―①（プリント）

７　指導に当たって

《班テーマ》

「指導と評価の一体化により、変容を自覚できる授業の工夫」

・　本単元ではわかりやすい文を書くことができるように指導をする。班テーマを踏まえ、生徒がわかりやすい文とは何かを自覚できるように以下の工夫をする。

（１）　授業形態の工夫

・　４人１組のグループに分け、形式段落ごとの関係、主張と論拠との関係、内容や構成、論理の展開などを検討させる。意味段落を考えさせることで、要旨を捉え、文章の見通しをもたせる。

・　４人１組のグループで、本文に対する自分の考えを述べた文章を読み合い、互いにわかりやすい文章であったかを評価し合うことで、実際に読み手にとってわかりやすい文であったかを考えさせる。

（２）　授業方法の工夫

・　意見集約等はウェブ会議システムの投稿機能を適宜活用し、生徒の通信端末で意見や解答を共有させる。毎回の授業で実施し、学習形態になれさせておく。

・　わかりやすい文とはどのようなものかについて、「主語と述語が対応している」、「適切な語順になっている」、「複数の意味をもつ文を避けている」、「接続表現が適切である」を評価項目として示す。

・　授業時間内に相互評価しやすいように意見文は 250 字以上 300 字以内とする。

・　意見文にコメントが書きやすいように、意見文は文書作成ソフトのファイルに記入する。
・　ＷＥＢ会議システム上にグループ毎のフォルダを作り、そこに文書作成ソフトのファイルを保存させる。
・　読み手の理解が得られるような文章を書くことができるようにするために、４人１組のグループで、本文に対する自分の考えを述べた文章を読み合い、互いにわかりやすい文章であったか評価し合う。

８　本時（全５時間中の第５時間目）

⑴本時の目標

文章を相互評価しあい推敲する力をつける。

⑵本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 10 分	・　本時の活動内容を把握する。 ・　前時で配られた評価項目シートを見ながら相互評価の方法を理解する。	・　自分の述べた文章がわかりやすい文になっているかどうかを相互評価し合う学習活動であることを指示する。 ・　グループを確認する。 ・　評価項目は「主語と述語が対応している」、「語順が工夫されている」、「複数の意味をもつ文を避けている」、「接続表現が適切である」であることを伝える。これ以外に意味の取れなかった箇所にもコメントを入れるように指示する。	
展開 30 分	○　評価シートと照らし合わせ、意見文にコメントを入力する。 ・　４人１組のグループ分かれ、評価項目シートに沿って、グループメンバー３人の文にコメントを入れる。(25 分) ・　意見文のコメントを確認し、修正する箇所を確認する。(５分)	・　コメントの入力方法は前時で指導し、デスクトップアプリを開いてからコメントするようにする。 ・　机間指導をしながらコメントを記入するのに悩んでいる生徒に適宜助言をする。 ・　記入されたコメントを確認するよう指示する。	イ―①（プリント）
まとめ ５分	○　文を推敲するにあたっての注意を聞く。 ・　次時の予告を聞き、学習の見通しを持つ。	・　コメントがあった箇所を修正しした意見文を書くように指示する。 ・　推敲した文をウェブ会議システム上で提出するように指示する。 ・　本日中に学習振り返りシートを記入するように指示する。	イ―①（プリント） ウ―①（プリント）

（3） 板書計画

※ プロジェクターに投影



（4）授業観察の視点

・ わかりやすい文を書かせる上で、「主語と述語が対応している」、「適切な語順になっている」、「複数の意味をもつ文を避けている」、「接続表現が適切である」という評価項目が適切だったか。